

## 電子向け特殊化学品増産

半導体やフラットパネルディスプレイ(FPD)に使う特殊な化学品を受託生産する黒金化成。集約化による生産効率向上を掲げた美濃加茂工場(岐阜県美濃加茂市)の第1期が2016年7月に竣工。従業員40人体制を構築して17年8月からフル稼働となった。第2期では知立工場(愛知県知立市)で運用していたフライン製造用設備の多くを美濃加茂工場に移設。18年2月に完成、4月に本格稼働を予定する。生産効率に加え、反応缶数は知立工場の1・4倍となり、生産能力もアップする。

同社ではフラインケミカルに軸足を置き、美濃加茂工場のフル稼働、売り上げ増にこぎ着けたい考え。半導体は急速に進化しているが、レジスト構造が異なるEUV(極紫外線)への対応には多大な設備投資が必要。A

rF(フッ化アルゴン)などの需要が増加するとみられ、同社では配線の微細化にともなう品質要求に対応する。一方、研究開発施設である知立市の「黒金化成テクニカルセンター(KTC)」では、pptレベルの金属イオン管理に対応する設備投資を検討。顧客のより高度なニーズにも対応し、受託の幅をさらに広げていく。

新興国を中心に需要を広げるFPDも重点領域。液晶の高精細化や有機EL(エレクトロルミネッセンス)の開発競争の本格化により顧客のニーズは厳しさを増している。ハイエンドとともに同社が狙うのが高度な技術や開発力が必要なニッチな分野。常に全体のニーズをくみ取り、自社の生産体制に合った受託を行っていく。

半導体、FPDに加え新たな分野への進出も模索している。マーケティング部開発グループでは、大手ユーザーの開発ニーズに常にアンテナを張っている。共同研究なども実施して事業領域の拡大につなげていく。



増井國彦社長